

座頭谷から逆瀬川源流を歩く

第78回 武庫川エコハイク

2013.10.12. エコグループ武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の西側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

太多田川(おただがわ) 有馬街道が川筋を通り、交通の難所で「四十八ヶ瀬」とか「四十八飛び」といわれていた。「うたたび(転び)川」から「太多田川」となったともいわれる。船坂集落を源流として全長約5km。

有馬街道 尼崎神崎から小浜宿、生瀬宿を経て太多田川沿いに有馬温泉に至る古道。豊臣秀吉が何度か通ったことで知られる。

有馬高槻構造線 有馬から太多田川沿い、宝塚市、池田市の山麓を走り、高槻市に至る大きな活断層、阪神淡路大震災では動かなかった。この断層を境に南側は六甲花崗岩層、北側は有馬層群である。

有馬層群と花崗岩 見られる所は、武庫川溪谷兩岸、有馬付近の山地。年代は、中世代白亜紀(7200万年～7500万年前)。地層の特徴: 激しい火山の活動によって噴出した流紋岩(りゅうもんがん)質の火山灰や火砕流(かさいりゅう)、溶岩が固まって出来た地層や火山岩である。火山灰が固まった凝灰岩(ぎようかいがん)、周りの岩石をとりこんで固まった凝灰角レキ岩、火山から噴き出した岩石と高温のガスと一緒に地表を高速で流れ出す火砕流が固まった溶結凝灰岩など色々な岩石で出来ている。マグマが地表で固まった溶岩は火山岩(流紋岩)と呼ばれ、地層とはいえない。丹生山地は火山岩で出来ているが、隆起したのはもっと新しい時代で火山とはいえない。当時、神戸付近だけでなく西日本全体が激しい火山活動があったことが分かっている。地表に噴出して固まったのが有馬層群であるが、マグマが地下でそのまま固まったのが六甲山地をつくっている花崗岩である(神戸の大地のなりたちと自然の歴史より)。

座頭谷 太多田川最大の支流、延長約1.8km。昔、有馬に向かって座頭が有馬街道で分岐道を誤り荒地の谷に迷い込んで遭難したことから「座頭谷」といわれる。座頭谷には20を越す砂防堰堤がある。

蓬莱峡温泉跡 現在尼崎信用金庫保養所。昭和15(1940)年～25(1950)年蓬莱峡温泉(冷泉・炭酸泉)があった。

しるべ岩 「しるべ岩バス停」を20m進んだところ、太多田川と座頭谷との分岐にある古い道標「みぎありま道」と刻まれている。岩の上にはしるべ岩と名付けられた由来を刻んだ碑がある。

蓬莱峡 花崗岩の破砕帯が風化浸食されて、大剣、小剣などむき出しになった花崗岩の奇岩がある景勝地。旧山口村長が朝鮮海金剛の景勝地蓬莱山に似るとして命名したという。

六甲砂防第1号 明治25(1892)年の大水害を契機に水源涵養、改修、砂防堰堤などの工事が兵庫県良元砂防工営所を中心に砂防工事が進められ、昭和13(1938)年の大水害でも無傷だったことから国営六甲砂防工事事務所が設立され引き継がれた。

大阪湾フェニックスセンター助成

鎧積堰堤 しるべ岩の砂防堰堤は「鎧積堰堤」で落水が直接目地に当たらない構造になっている

六甲みつばちハニー農場 六甲山麓の豊かな自然の中の山々の花、アカシア、マンサク、キブシ、ハギなど、その季節に自然に咲いて蜜を噴く植物の蜜を集めて生産されている養蜂場です。

小笠峠 六甲山から檜ヶ峰に通ずる峠で、逆瀬川と仁川の分水嶺

逆瀬川 六甲山系大平山南側を源流として花崗岩の六甲山東麓部を流下し宝塚ゴルフ場を經由して宝塚市で武庫川に合流する。延長約6.5km、標高差約200mの急傾斜の河川。川が逆流するとか流れが早いことから「逆瀬川」の名前がついたといわれる。

逆瀬川の谷 逆瀬川谷の北側に譲葉山(ゆずりはやま)南側に檜ヶ峰(かしがみね)がある。譲葉は枕草子にも出てくる地名であるが、この辺りには植物のユズリハは自生していないので「ゆずる」から来ているといわれる。また檜ヶ峰の「かし」はかしく(急傾斜地)からといわれ、この地帯の地形を示すものと思われる。

千石ずり 一雨で千石の土砂が流れたといわれる大規模土石流の跡。譲葉山の南面にあたる。

逆瀬川砂漠 逆瀬川の下流部で宝塚ゴルフ場とその下流は「逆瀬川砂漠」と呼ばれ幅は300mに及んだ。

逆瀬川の砂防 明治25(1892)年発生した大水害は六甲山の災害対策に目が向けられ、良元砂防工営所が設置され、明治32(1899)年上流から工事が行われた。

赤木正雄博士 逆瀬川砂防の特徴は上流から土砂止めを行うという工法が採用された。これは砂防の父といわれる赤木正雄博士(1887～1972、豊岡市出身)の指導によるものである。

①山腹工 崩壊の進む山腹に段を作り、そこに客土し松などの植樹をする工法。山腹の崩壊と競争するように進められた。(明治8年～大正6年)

②ダム工 土石流を防ぐ目的で設置された。現在の砂防堰堤である。

③流路工 下流は流路を安定させるため玉石積みの擁壁で固定し、川の急流を抑えるため落差工が設けられている。(昭和3年～)

これらの砂防工事は現在のような重機もなく、人力による作業で行われ、これにより昭和13(1938)年の六甲山山麓大水害にも耐え、その後も水害は起こっていない。

ゆずり葉緑地公園 逆瀬川砂防事業の関連事業として宝塚市が平成2年に完成した。3.2ヘクタール

砂防モニュメント ゆずり葉緑地の一角に県が「逆瀬川砂防学習モデル事業」として平成2年砂防モニュメントが作られ砂防の歴史等についての展示がされている。ゆずり葉緑地に隣接する逆瀬川には種々の堰堤(自然石積堰堤、鎧石積堰堤)が設置されている。

逆瀬川の開発 逆瀬川の砂防工事により下流部で2～300mあった河原が陸地に変わり、良元村の庄屋平塚嘉右衛門が、ゴルフ場、住宅地の開発を行い、現在の逆瀬川の景観となった。この土地の売却代金が工事費に当てられたという。